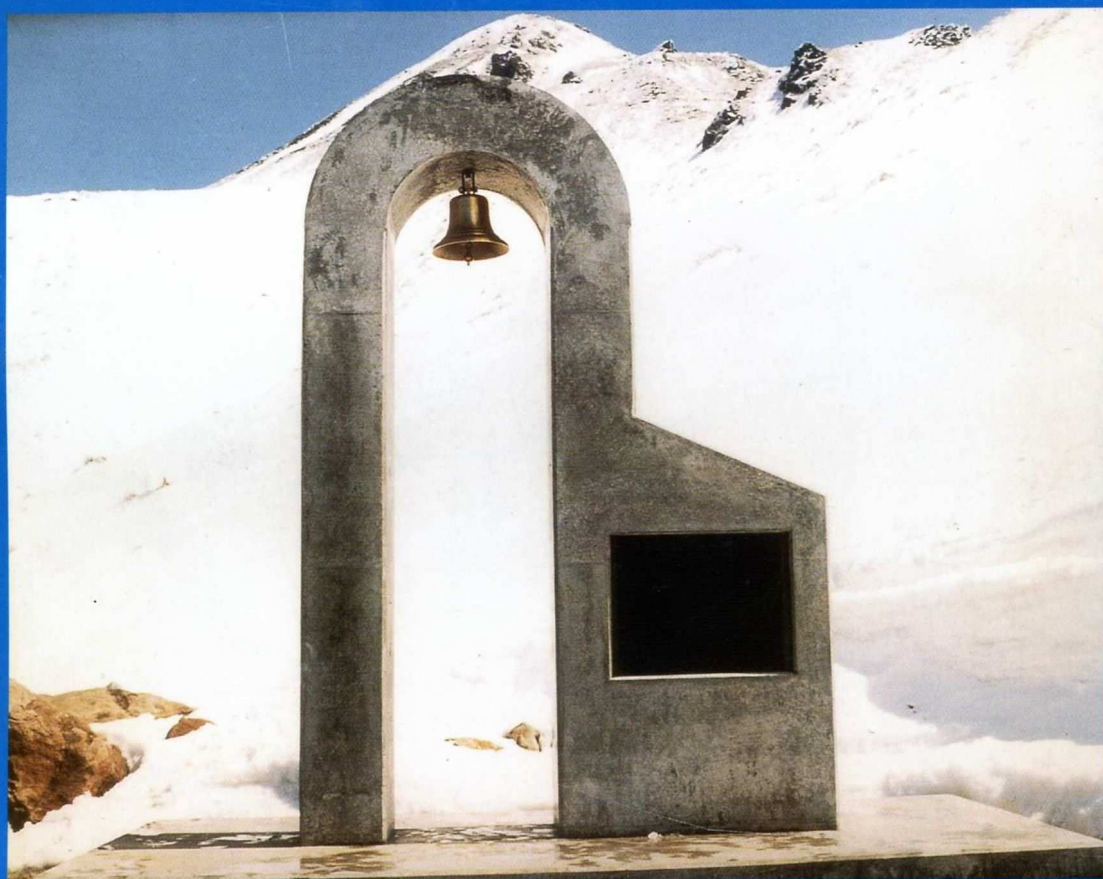


日赤岩木山パトロール隊

# 結成20周年記念誌



1976 → 1996

日赤岩木山パトロール隊  
結成20周年記念誌

## 日赤岩木山パトロールの言葉

- 1、岩木山を訪れる人々の事故防止につとめる。
- 2、岩木山の自然を愛する者たちの知恵を出しあう仲間をつくる。
- 3、事故発生に対処する技術を磨きあう仲間をつくる。
- 4、見近な奉仕をひろげ、  
すべての人々と手をつないで、  
世界の平和につくす。

(赤十字奉仕団員の信条)

## 20周年記念誌発行にあたり

岩木山パトロール隊  
日赤奉仕団 隊長

一戸 繁輝



この度、岩木山パトロール隊日赤奉仕団の発足20周年記念誌の発行にあたり、過ぎ去った日々が走馬灯のように脳裏を馳せております。

このような形になるまでには多くの仲間の有形無形の熱い情熱が、あたかも鉢植えの花の結実を願って水を指し与えるように注がれていたことを忘れてはならないと思います。また、地元岩木町をはじめ弘南バス株式会社、春スキー連絡協議会傘下市町村の深いご理解を頂き、日本赤十字奉仕団に名を列ねてからは赤十字社青森県支部の多大なご支援を頂いて今日に至りました。心より感謝申し上げます。

また、この記念誌の発行に際して忘れてはならないことはパトロール隊員一人一人のこよなく岩木山を愛する情熱に基づいた献身的な活動であります。時間の経過に伴って隊列を離れたメンバーを含め、現役隊員の研鑽を重ねたパトロール精神こそが活動を支えるエネルギーである事を誇りに思っております。

ここに内にも外にも深甚なる感謝の意を表するものであります。

時代はいかように変遷しようとも、ここ津軽に岩木山が聳える限り我がパトロール隊は、登山者と自然を愛する人々の安全のために、昼夜労を惜しむことなく堂々と活動を展開するであろう事を確信するものであります。

謝意の思いの不足につきましては記念誌のページからお汲みくだされば幸いと念じてご挨拶を申し上げます。

## 祝 辞

岩木町 町長

小寺 勇



日赤岩木山パトロール隊20周年誠におめでとうございませう。この間の貴隊のご活躍とご努力に対し、改めて心から感謝と敬意を表する次第であります。

さて、平成3年東京ドームでの『日本ふるさとフェア』におけるふろさと富士人気投票の結果『津軽富士岩木山』が全国第1位に選ばれたことが示すように、ここ数年来岩木山の地名度及びイメージは非常に高まっており、岩木山を訪れる登山客及びスキーヤーは増加の一途をたどりその安全対策は極めて重要課題であります。

このような状況の中で貴隊は、隊発足から一貫して山岳遭難救助活動とスキーパトロール活動を中心として、登山道の整備、清掃、動植物の保護等の環境保護活動の外、町内での各種イベントの積極的な支援等々その活動は広範囲に及びしかも全ボランティアによるものであります。

このような実績は、登山客及びスキーヤーは勿論のこと各関係機関及び一般市民からも高い評価を受け感謝の声が寄せられており、町民を代表し、ここに心から厚くお礼申し上げます。

このことは、これまでの貴隊が受賞された数々の賞からも明らかであります。県警本部等各関係機関からの感謝状授与は数知れず、平成元年には、社団法人全国レクリエーション協会優秀賞、そして平成3年には、当町の最高顕彰である『岩木町褒賞』を受賞されております。

今後は、岩木山を訪れる観光客は益々増大し、その安全対策はこれまでに以上困難が伴うものと思われまふ。町としても、可能な限りのバックアップをする所存でありますので、貴隊におかれましては隊員の皆様個々の技術の向上に努め、『お山の安全』のため尚一層のご活躍を期待して日赤岩木山パトロール隊20周年記念誌発行にあたりごあいさつとさせていただきます。

## さらなる飛躍を期待して

日本赤十字社  
青森県支部

中尾 良仁

いま、国内外各地で発生している武力抗争・民族紛争による難民や、自然・人為災害による犠牲者の救済等、世界の赤十字社は互いに連携を密にし、懸命に人道的請活動を続けております。

また、国内にあつてはここ数年来、地震等の自然災害が相次ぎ、災害救護への関心が高まっている中、昨年一月、発生した阪神・淡路大震災は数多くの教訓を残しました。

わけても災害時におけるボランティアの活動が大きく注目を集め、それに呼応して赤十字奉仕団の在り方にもさまざまな期待や要請が寄せられております。

こうした中で岩木山パトロール隊赤十字奉仕団が、結成二十周年を迎え、これまでの歩を回顧し、新たな決意を誓い合うことは誠に意義深く、記念誌発刊を心からお祝い申し上げます。

『温故知新』―古きをたずねて新しきをしる―  
同奉仕団は昭和五十九年にきびしい隊員資格を取得した人達によって組織され、以来、山岳救助活動をはじめスキーパトロール、各種イベントへの協力、登山道整備、夏山清掃活動、登山ガイド、高山植物保護活動等、実に多彩な活動を展開して多大の成果をあげ、県警本部長ほか各関係機関・団体より数度にわたって感謝状を授与されました。

さらに平成七年九月二十七日、三笠宮寛仁親王妃信子殿下御臨席のもとに開催された青森県赤十字大会における同奉仕団代表の体験発表は、参加者各位に深い感銘を与えたことは記憶に新しいところであります。

岩木山を訪れる数多くの人達の安全を守るため、陰の力となつて長年にわたり、献身的な奉仕を続けてこられました同奉仕団の方々のご労苦に改めて心から敬意を表します。

結成二十周年を一つの大きな転機として、団員一同、一致協力して赤十字の理想とする人道的諸活動を今後ともより着実に実践して下さるよう念願して止みません。

おわりに岩木山パトロール隊赤十字奉仕団が本県の数ある特殊奉仕団をリードする先駆者としてさらなる飛躍を遂げられますようご期待申し上げ、発刊にあつての言葉といたします。

## 20年の活動の重み

青森県山岳遭難防止  
対策協議会弘前支部  
支部長

松尾 義明

このたび、日赤岩木山パトロール隊奉仕団が結成二十周年を迎え、記念誌を発行するに至つたことに對し、心からお祝い申し上げますとともに深く敬意を表する次第です。

貴隊が、『赤十字奉仕団規則の定めに基づき、事故を防止し、安全な社会を築くに必要な実務的業務に奉仕するものとする』の目的をもつて結成以来、二十年間の活動と業績は輝かしいものとして記録されるべきものであります。

津軽のシンボルである岩木山を主舞台に活躍する、隊長以下厳選された隊員の士気は高く、その団結力と迅速な行動力はボランティア精神の精髓を見る思いがします。

当青森県山岳遭難防止対策協議会弘前支部にとりまして、貴隊は昭和六十一年に加盟して以来、同年一月の岩木山岳会の雪崩遭難捜索、同年八月のハングライダー事故の捜索救助、同六十二年四月の春スキー遭難者救助等、本年まで数々の遭難者を救助する等その成果は際だつております。また、遭難現場に出動を依頼する度、家庭生活・職場を犠牲にして深夜・季節を問わず迅速に捜索活動に従事していただくと共に、遭難現場あるいは訓練においても捜索隊員に對しての指導教養等、リーダー的役割を果たしており、欠くことのできない重要な位置を占めております。

これまでの活躍に対する各方面からの表彰は、貴隊のボランティア精神に基づく奉仕活動が、地域住民のみならず岩木山を訪れる県内外の人達に、大きな安心と信頼感を与えた結果であり、心から称賛されるべきものであります。

近年は、交通手段の発達・宿泊施設の充実・登山道の整備・その他情報網の発達等により、季節を問わずその目的も様々な形で軽装での入山者が増加しておりますが、下界から見ると美しい津軽富士も瞬時に牙を剥き、入山者を拒むことが度々あり、遭難事故の多発が心配されているところであり、貴隊の技術・装備・経験に裏打ちされた的確な判断力と迅速な行動力に大きな期待と信頼感をよせているものであります。

終わりに、貴隊員の、たゆまぬ努力と強い使命感に對して敬意と感謝を申し上げると共に、今後益々のご活躍をお祈りいたします。



## 20周年記念誌発行にあたって

財団法人  
青森県スキー連盟 会長

油川 和世

まずもって、日赤岩木山パトロール隊の20周年を心からお祝い申し上げます。

一口に、20年というものの、その間の組織の維持と活動の持続には、なみなみならぬご苦労があったと思われ、併せてご慰労申しあげます。

さて、求められるスキーパトロール像を私なりに考えてみました。事故現場でのパトロールが手当てした応急措置が、ゆだねられる医療機関にとつては極めて重要・不可欠であり、その後の医療を左右する大きな役割を担っている、と思います。

事故発生と同時に、その対応はリアルタイムで要求されます。現場はいつも寒冷・斜面での悪い条件下、それに気象的な悪条件も加わるかも知れません。しかし、いついかなる場合でも、求められるのは冷静で透徹した判断力、沈着な行動力、加えてチームワークによる協調性、スキー操作の確実性を、欠かすことなく備えている者が、真のスキーパトロール隊員かと常々考えてございます。

スキーパトロールの現場における迅速で的確な措置は、事件における初動捜査であり、火災における初期消火であるかとも連想され、大事に至る前のきわめて大切なことでもあります。

ここ数年來、スキー人口は減少化の傾向をたどっていると言われております。

しかし、急速に普及し始めたスノーボード、次々に開発・製品化されるスキー用具、稚拙なスキー技術の自信過剰など、原因はさまざまですが事故は決して減らないし、むしろ複雑・多様化し、大きくそして多くなるのではと推察されます。20周年を契機に尚一層の研鑽をつまれば、スキーヤーの安全とスキー場の保安・秩序の維持、ひいては、スキーの健全な普及と発展に寄与されんことを念願し、併せて貴パトロール隊のますますのご活躍を期待して、記念すべき節目のメッセージとさせていただきます。



## 日赤岩木山パトロール隊の皆様へ

岩木山スキー連絡  
協議会 会長  
弘南バス株式会社 社長

松田 勝義

津軽岩木スカイラインが昭和40年に開通して以来、四季を通して実に沢山の方々が、この山に来て下さいました。

当然のことですが、スキーヤーがこの山を目指してやって来るようになり、殊に岩木山の春スキーは、そのスケール、景観、そして何より土地の人々の暖かいホスピタリティによって、全国のメッカとさえ言われるようになりました。

日赤岩木山パトロール隊が、この20年間、その下地を着実に築き上げてこられた。ご苦労とそれを支えてきた隊員の皆様的情熱には、ただ頭の下がる思いです。有難いことです。一口に20年と言いますが、この間、多くの方々のスムーズなパトロンタッチによって、今日まで脈々と立派な活動が引き継がれてきました。素晴らしいことです。

いま、一戸隊長の掲げる旗の下に集い、スキーヤーの安全に意を注いでおられる隊員の皆様と、パトロール隊発足以来、深い愛情をもって隊を見守ってこられた土岐先生に、改めて敬意と感謝の誠を捧げる次第です。



## ご挨拶

株式会社スワロースキー  
代表取締役  
丸山 哲三

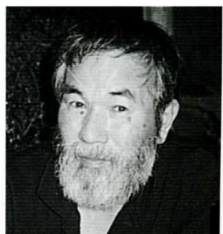
日赤岩木山パトロール隊の皆様のご活躍と二十周年記念誌発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

スキーを通じてパトロール隊員の皆様には特段のご愛顧をいただき誠にありがとうございます。

大自然のすばらしさや、感動を与えてくれる山々には時として人間の力では計り知れない災をもたす事がきせずして偶発する場合がありますが観光客やスキーヤーの安全のためにパトロール隊員の皆様の日頃の地道な活動が生かされている訳であります。

さらに青森県スキー連盟、日本赤十字社青森県支部岩木町関係各位の皆様のご尽力のもとにお一層前進して活動の強化をお願いしたいと存じます。

皆々様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げますと共に微力ではございますが応援させていただきたいと思っております。



## 岩木山パトロールの思い出

岩木山パトロール隊顧問  
初代隊長  
秋田 幸広

私が生まれた初期の嶽温泉は、半年冬季バスも来なく陸の孤島でした。そんな環境の中では、毎日「雪片付け」「酒」「寝る」事でしか過ごす事が出来ませんでした。しかし、夢を創る時間は十分に有りました。その夢とは弘前公園の観桜会と岩木山での春スキーでした。この気持ちをまわりの人達に話したところ、スキー仲間以外には理解を得られませんでした。が、積極的な人に巡り合えることが出来ました。その人は角田充氏でした。

まず、角田氏は役所に向き協力要請に走り回ってくれました。その中で特に弘前市の協力は多大なものでした。(元商工課・佐藤氏) 私達も岩木山に来る人々が安全に楽しむための準備に取りかかる事にし、角田氏はルートマップを、私は入山届け用紙入れ箱を作り、各ルート入口に設置しました。(現在無くなっており残念である) また、人々が岩木山に来て安全の確保が出来なければ何もしないという考えからSAJ公認パトロール12期を取得し、全国のパトロールの仲間と協力をお願いしました。こうして岩木山の春スキーが本格的にスタートしました。その頃の仲間とは今でも20年間毎年顔を合わせることが出来、嬉しいものです(同期・中村光一郎氏) 残念ながら他界した仲間もいます(大熊先生・成田先生)

当時の春スキーの期間は短く、四月下旬から五月上旬でした。この時期、他のスキー場はシーズンが終わっており、大鰐温泉スキー場で活躍のパトロールには全面的に協力を頂き、忘れることは出来ません。当時シャトルバスは無く自家用車・トラックの荷台に乗り、春の香りの中を突き進み、夜はスキーヤーと酒を酌み交わしながら津軽を、そして岩木山を語り明かしたものでした。

我々は体から「ナタ」「のこ」「救急用具」を離さず、スキーヤーの進路を邪魔する柴・小枝等を取り除きながら進んだものでした。そうした中で、岩木山に適した救急用具の研究開発をし、功を奏しました。(応急スノーボートは特許取得そんな状態が続いている中、先祖からの夢の岩木山スキー場の構想のため、角田氏と南斜面を限なく滑り調査弘南バスも協力し、協力体制を整え、案内標識等も完備できるようになりました。

それから、今でも楽しい思い出がたくさんあります。岩木山山頂付近から足並みが揃わない三人の女性スキーヤーを背負い搬送した時のことです。彼女らは自分の足でスキーを楽しむことが出来なかつたにもかかわらず喜んでいました。お客さんの喜びは我々の喜びです。そのほか滑り下り、川辺に隠し冷やして置いた缶ビールの美味しさは忘れられません。最後に、春スキーが終わる全員で各コースの清掃をやり、隊員からゴミは落ちていません、との報告を聞いたときほど嬉しかったし、誇りに思ったことは

ありません。皆の力で此処まで来た事を思い出しています。  
『皆が楽しみ、帰れる、岩木山で有りますよう』

## 日赤岩木山パトロール隊の紹介

昭和四十年に『津軽岩木スカイライン』が開通し、昭和五十年国定公園の指定を受け数多くの観光客が訪れるようになった岩木山、新緑の春から紅葉の秋には手軽に岩木山を楽しむ事ができ、冬から春までのスキーは他に類を見ないスケールで年々その数を増すばかりです。それから岩木山を訪れる数多くの人達が楽しく安全に岩木山に親しんでいただくために昭和五十一年四月岩木山を愛する山男達が結集し山岳救助隊活動やスキーパトロール活動を展開したのです。

発足当時百名を越す隊員数を誇っていたが、昭和五十九年四月日赤奉仕団に加盟し組織の充実が図られました、活動範囲の拡大と資格取得、救助訓練、講習会等厳しい基準をパスした隊員達で組織されるようになったのです。

現在一戸繁輝隊長以下三十八名の隊員達は二十年前の先輩隊員の教えと誇りを忘れることなく山岳救助活動、スキーパトロール活動、登山道整備、夏山清掃活動、登山ガイド、高山植物保護活動、地域の人々との交流など多岐にわたる活動を展開いたしております。



### 隊員資格と登録団体

全日本スキー連盟公認スキーパトロール  
日本赤十字社救急法適任者  
アマチュア無線免許  
日本赤十字社特殊奉仕団加盟  
青森県山岳遭難防止対策協議会加盟

昭和五十九年日赤奉仕団加盟



# 対談

岩木山パトロール隊20年  
あの古き良き時代を語る

出席者

山内春吉 赤石勝美(司会)  
秋田幸広 澤田健英  
一戸繁輝 土岐採子(記録)  
土岐 司 高田敏幸(記録)  
田澤秀恭

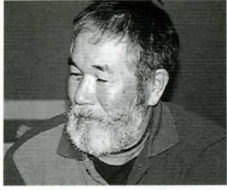
**赤石** まずもって今日はお忙しい中お集りいただきありがとうございます。実は、この会は昭和51年から発足した訳ですが、20周年記念誌発行に当たり古い記録がありませんのでお集まりの皆さんからパトロール隊の発足当時からお話を伺いたいと思いますのでよろしくお願い致します。

まずは秋田さんからなぜ春スキーを始めたのか伺います。

**秋田** 当時嶽は雪深く春が来るまで寝食いの状態でお客が来なかった、そこで少しでも早くお客を呼ぶにはどうしたらいいか考えたのです、せせして春スキーを10日でも一カ月でも早く出来るようにすればお客もくるだろうと言うことで始めたのです。

**赤石** 昭和何年ごろでしょうね。

**秋田** 私が公認パトロールを取ったのが昭和48年(公パト12期)ですからその前の年に春スキーをやろうと言ってこれにはパトロールの資格をとったほうがいいと言うことで48年蔵王まで行って公認パトロールを取ってその春から始めたの



です。始めた当時は一カ月も春スキー期間がなく10日間ぐらいのものでした。大鰐スキー場が3月いっぱいまで終わるので大鰐のパトロールがみんなやって来た。

**山内** 秋田さんから大鰐が終わったら岩木山へ来てくれと言われ行ったのが始です。よくナタやノコを持ってしば払いしたものだよ。

**赤石** 春スキーコースはどうなっていましたか。

**秋田** 始は嶽コースと百沢コースしか無かったです。

**秋田** 角田さんががんばって弘前市や岩木町に働き掛けてコース整備の予算を付けてもらった。弘前城の桜と岩木山の温泉とスキーというキャッチフレーズだね。

**一戸** 昭和48年がスタートだと思う、まだ

秋田さんの静養館が嶽温泉にあつてすごく世話になったもんです。

**秋田** 当時春スキーのお客さんは八甲田へ行っていた、そのお客さんを岩木山へ呼ぶ事を考えたのです、そして東京のパトロールの中村さんや永井さんたちが来るようになったんです。

**一戸** その後読売旅行のツアーが来たんだ。



読売旅行は八幡平に行っていて山内さんと今井さんがガイドで八幡平まで行っていたんです。それを岩木山に呼んで本格的に春スキーにお客が来るようになったんです。

**秋田** あのころ地元の人には春スキーをしてなくて、東京の人達ばかりのよう気がする。

**赤石** いろいろ苦労があつたと思いますが、**秋田** 苦労と言うことはさほど無かつた、お客さんとスキーしたり酒飲んで楽しかつたですよ。

**土岐** 私が岩木山へ行つたのは、成田さんに連れられて行った記憶がある昭和51年公認パトロール16期ですからこの年民宿じよつぱりで第一回総会が開催されていますが、私はその1、2年前あたりから行っていると思います。

当時の貴重な資料

**赤石** 山のコース表示はどうなっていましたか。

**秋田** 山遭協の登山標識がついていてそれを利用して。そしてライオンズクラブのが付いて、その後岩木町や岩木山連絡協議会から予算を付けてもらって現在にいたっている。

**山内** 当時は嶽と百沢コースしかなく角田さんに初めて弥生コースに連れていってもらった、あの大黒沢の印象はすごく残っている。



**秋田** コースとしては嶽、百沢、弥生で長平が最後です。  
**赤石** 日赤に加盟したのはなぜですか。

**土岐** 怪我人の救助で責任問題になったり、社会に認知される事など考えバックボーンとして日赤は必要であった。

**一戸** 昭和59年4月に加盟したのだが、昭和50年半ばごろには加盟したほうがいいと議論はしていた。そのころ沢へ落ちた女性がいったり、スキージャーナルの社長のよう

に怪我したりいろいろあっていたから。  
**田澤** 私は山頂から百沢まで怪我人を背負い搬送したことがあった、昭和52年(19歳)から来るようになったと思います、民宿じよっぱりの3階でよくお世話になりました。

**赤石** パトロールの常勤としてはいつから活動したのか。

**秋田** 石郷や山内春吉さんたちでしょう。

**一戸** 石郷と徳海だと思う。

**澤田** 常勤というのは給料をもらうようになってからです。私は広島さんと昭和56、57年ごろから給料をもらって常勤としたのが始だと思えます。

**赤石** 岩木山春スキー連絡協議会から予算が付いてからですね。

**山内** それまではボランティアです、秋田

屋と岩木旅館つまり秋田さんと赤石さんのところにはその変わりものすごくお世話になったのです。お客さんを案内して帰れば酒付きでごちそうになり毎日泊まっていた。  
**秋田** よく飲んだな、お金は残らなかつたけど楽しかったよ。



**山内** いやーほんとによくただ酒ただ食いましたもんだ、秋田さん赤石さんほんとうに感謝してます。

**赤石** 昔の苦労話。

**山内** ナタを持ってよく芝刈りしてコースを作った

**秋田** 始はコースなんてなかつたんだから、おもに雪の残る登山道沿いにコースを開拓していった

**山内** 夏もよく角田さんに連れられて芝刈りにいったもんだ

**赤石** ガイドしていてなんかエピソードはないですか

**山内** 東京のお客さんで女の子だったか、大黒沢に落ちてずぶぬれで助けた事があったが大変だった。あと赤沢をトラバースして滑落した人がいて助けた事もあった

**一戸** 春スキーの宣伝をもらうのに雑誌社の社長(スキージャーナルの高橋社長)

をご招待して案内したんだが途中で足を怪我してボードで降ろした事があった。それからなぜか岩木山に気に入ってもらってよくお出でいただくようになりましたね

**赤石** 記録によれば昭和51年に発足総会をしてその後やってなかったのでしょうか

**一戸** その翌年全日本スキーパトロール連絡協議会の総会を岳スポーツセンターでやった

**秋田** 51年に『まかど温泉』で行われたのでその時行って岩木山に誘致したいきさつがあった

**赤石** 隊員の数も百何十名もあって会費を集めるのも大変で、そのころからすでにパトロールの資格なんか取得して現在のようになりしようと思っ



向づけられたと思います  
**山内** 角田さんがいればもっとさちちとしてたと思う、夏山ものすごく

詳しいから、あの人の記録から大学の教授達が本を出したようなんです

**赤石** 成田義勝氏が亡くなって14年になります、成田さんと岩木山のかかわりは

**秋田** 我々が春スキーを確立してからです

**山内** 私がパトロールを取ったのが41歳で15期でした、そのころからだと思えます。

**一戸** 私も昭和49年にパトロールを取った(12期)時ぐらいからだと思えます、八幡平や八甲田、月山のお客さんを岩木山へ誘致しなければと皆でがんばった時成田さんがいた

**赤石** 成田さんは発足当時はパトロール顧問で公認パトロールの技術員だった

**山内** 八幡平のお客をおまえら行って連れて来いやと言われたころからだ

**赤石** パトロールの養成にはものすごく力が入っていたと思う、私たちのパトロールを取った前後の人はすごく世話になった

**赤石** 20年は早かったですね  
**山内** Bコースに楽しんでただただ芝刈したね

**赤石** 振り返れば大きな事故がものすごく記憶に残っていますね

**一戸** 20年は早かったようだが一年一色々な出来事があり、色々な事もして来たと思います。その記録がもし残っていたなら膨大な資料だともいいます。

**秋田** 私も大きな事故が記憶に残るがやはり事故はパトロールの指示にしたがわなかったか油断して事故になってるようだよ  
**赤石** 大きな事故と言えば昭和60年の岩木山岳会の雪崩事故ですね、あれをきっかけにパトロール隊の守備範囲がものすごく拡大していったと思いますが、先輩達はどう思いますか

**秋田** やっぱ岩木山パトロール隊は岩木山全部が守備範囲ですよ、その為にいろいろな機材を作ったり装備して行っただけです  
**赤石** 昔は死亡事故はなかったですね、近年そういう事故があるようになりましたね  
**秋田** 今ほど人も入っていませんが、今の入山者は簡単に入るし安易な気持ちで行動しているのでは

**山内** パトロールの指示に従わない人が多いね  
**一戸** 雪崩にはものすごく神経を使った年もあったね、昭和57、8年ころだと思いがハッパかけたりコース閉鎖したりして事故を防いできた  
**赤石** スワロースキーさんとの係わりはいつごろからですか

**一戸** 昭和50年ごろ大鰐スキー場へスキーテストで来た時からの付き合い合いです

**秋田** その時岩木山へも来てスキーテストしたんです



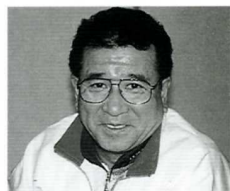
高田敏幸 (記録係)

**澤田** ホープの田川さんもそのころでしょう

**山内** パトロールの付き合いはいろいろなメーカーや人と付き合いがあった、サンケイスポーツ、ミズノ、スワロー、全国各地のパトロール

**赤石** 最後になりましたがお一人ずつ20年の感想を

**土岐** 本当に色々な事がありました、スキーパトロールからオールシーズンの山岳パトロールに変わって来たがそれはその時々事故に対応して来た結果だとも思います、そしてそのようにできた事はいろいろな方々のバックアップがあったからだと思います、若い隊員も力強いパトロールに成長してきた、これからは益々入山者は増えるであろうから事故の未然の防止に全力を注ぐ次第です



**澤田** 昭和56、7年ごろから常勤をして本当に皆頑張ったと思う、これからも頑張った山の安全に努めたい

**秋田** 今も昔もパトロールの本質は忘れていないはずだが益々増える事故に敏速に対応し、装備の充実と救助態勢の整備をしていつてほしいそして若いパトロールの人達には今以上に頑張ってください

**田澤** 若い隊員が少なくなってきたので若い隊員の養成がほしいと思います

**山内** もう20年にもなるのか、昔私たちも頑張ってきたが今のパトロールの対応もすばらしいですね、いろいろな講習会やったり無線の免許取ったり装備もすごく良くなりましたね、年々事故も大きくなって来ていますパトロールの組織もしっかりしていなければなりません頑張ってください

**一戸** 20年もたちましたか、若いパトが少なくなってきたがまだまだ若いつもり



で山へ入っていますがやっぱり年々しんどくなってきました、長年の夢であるスキー場も目前まで来ていますまだまだ頑張らねばと言う気持ちです

**土岐** 20年かかかって来た、秋田さん山内さん一戸さんたちの男のロマンがすごく伝わってきますね、一步一步の積み重ねの歴史が重く感じます、これからは私たち隊員はそれを受け継がなければならぬ、若いパトロールを養成しなければならぬ、目の前のスキー場も自然と共成していくようにパトロールも自然との共成だとも思います

**赤石** 秋田さんの後をついで地元としてパトロールを取って頑張ってきたこれからは益々増える入山者に対応して行くうえにも後継者づくりが急務だと思います、20年は一つの過程ですみんなの力を合わせ今後も頑張っていきたいと思っています

1984年  
(昭和59年)



3月 雪上車スキー開始にともない冬期スキーパトロールを始める。  
ヘリスキーが行われスキーパトロールの範囲も拡大。



4月 日赤奉仕団加盟結団式  
山を愛する心を忘れる事なく、「常に事故の未然の防止」をもっとうにあらゆる山にかかわる活動を展開する事になる。

9月 東奥日報社より活動支援の為スバル北斗18号が寄贈される。

## 20年の歩み

1985年  
(昭和60年)



4月  
春スキーコースの誘導標識設置  
スキーヤーの増加に伴い、スキー  
コースの標識設置を地元常盤野観  
光連盟と吹雪の中実施された。



4月  
スカイラインポンタカップ大  
会開催。  
岩木山春スキー大会の閉会に  
伴いパトロール隊を中心に第  
1回ポンタカップを開催、な  
べ沢をコースにユニークな大  
会となった。



4月18日 三笠宮寛仁親王パトロール隊の案内で晴天の岩木山春スキーを大いに楽しまれた。

1986年  
(昭和61年)

1月 青森県警察本部長より感謝状授与  
岩木山岳会雪崩遭難救助活動に対して授与。

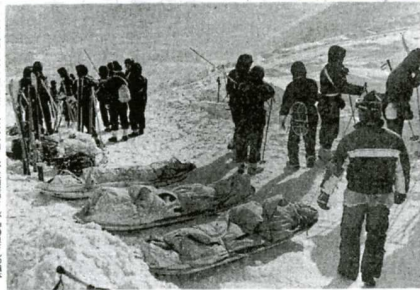


1月 岩木山岳会雪崩遭難捜索救助活動  
正月登山の岩木山岳会が折しも年末からの吹雪の中  
5名が雪崩に巻き込まれ内1名が自力脱出救助を求  
める、最悪の気象状況の中必死の救助活動が行われ  
たが4名の死者を収容。

3月 第一回スカイライン  
スノーボード大会開催  
昭和59年に初めてス  
ノーボードが入りこ  
の年から大会も始ま  
り現在のブームは岩  
木山が元祖である。  
青森県山岳遭難防止  
対策協議会会長より  
感謝状授与  
感謝状の写真掲載



正月登山 まさかの暗転



生還信じたのに…  
遺族ら悲しみの対面  
岩木山遭難  
「生還した」と信じた遺族らに、捜索隊が「死亡した」と報告した瞬間、遺族らは悲しみの対面に直面した。遺族らは「まさか」と信じ、捜索隊の報告を受け、悲しみの対面に直面した。

白魔、突然音もなく  
先頭の神さん自力脱出

「計画ミスないが…」  
神楽隊の先頭、神さん、自力脱出。計画ミスはないが、先頭の神さんが自力脱出した。計画ミスはないが、先頭の神さんが自力脱出した。



左に人が倒れ、右に出発の準備をする捜索隊員

8月 ハングライダー墜落遭難捜索救助活動  
岩木山硫黄沢山中にハングライダーが墜落、7  
時間に及ぶ救助活動であった。

岩木山で墜落  
翼折れ、男性重体  
7時間ぶり救助  
斜面険しく難航、救助隊は7時間ぶり救助

斜面険しく難航、救助隊は7時間ぶり救助

1987年  
(昭和62年)



走れ!さわやか津軽の大地。

3月 第一回岩木山スキーマラソン大会開催支援協力  
宮様がコース設定された全日本公認の大会である。A級の選手から一般スキーヤー二千余名が参加。

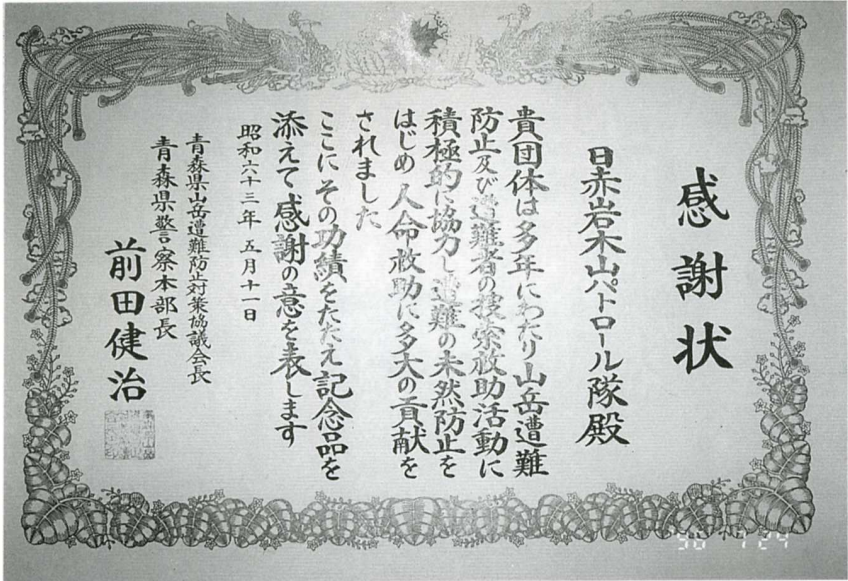
5月 春スキーヤー2名遭難捜索救助活動  
夜間捜索の結果翌朝無事発見。 新聞記事掲載



5月 (株)弘南バス社長より山の安全活動に対し感謝状授与  
弘前警察署署長より春スキーヤー遭難救助活動に対し感謝状授与  
感謝状の写真掲載

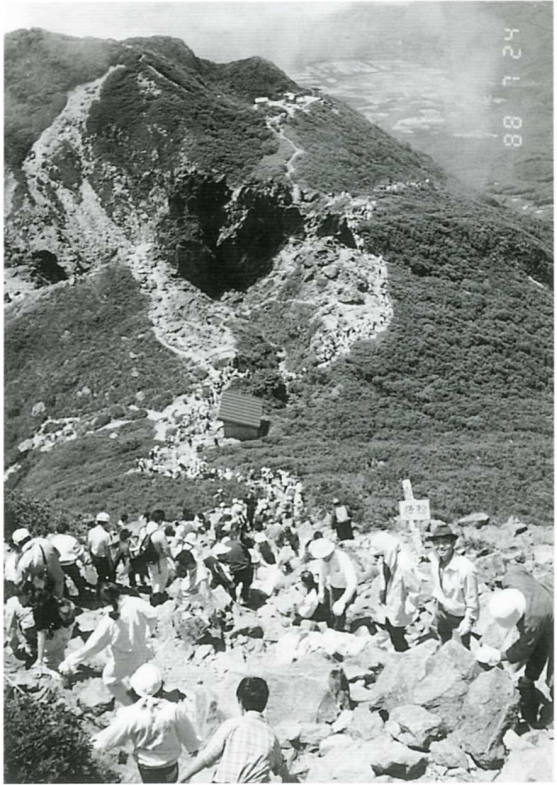


**1988年**  
(昭和63年)



5月 青森県遭難防止対策協議会会長及び青森県警察本部部長より山岳救助活動に対し感謝状授与

(1) 第14885号 (昭和63年10月1日第三種郵便物認可) 捜索隊員の手を借り、給電車を降りる青森寺さん



7月 岩木山山頂ケルン建設協力

昭和60年山頂標柱が建てられたがその夏落雷にて破損、今回数百名の一般参加を得建立する事ができた。

# 弘大生を無事救助

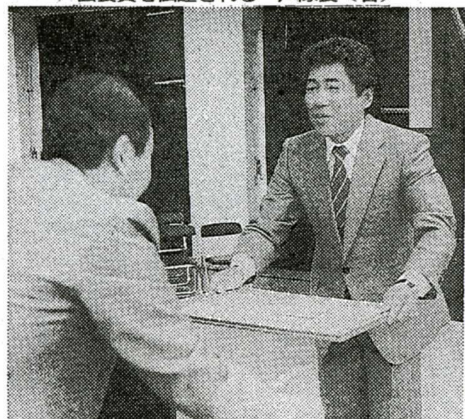
## 4日ぶり 頂上北側斜面で

**岩木山で不明**  
十勝を縦断し、山岳登山の経験豊富な弘大生が、岩木山を登山する途中で、頂上北側斜面に滑落し、生死不明となった。捜索隊の協力を得て、4日ぶり、頂上北側斜面で発見された。弘大生は、滑落後、生死不明となり、捜索隊が4日ぶり、頂上北側斜面で発見された。弘大生は、滑落後、生死不明となり、捜索隊が4日ぶり、頂上北側斜面で発見された。

12月 弘前大学生冬山単独登山遭難捜索救助活動  
猛吹雪の中山頂まで捜索が行われたが発見できず、翌日遭難より4日ぶりに無事捜索隊により発見救助。



会長賞を伝達される一戸隊長（右）



日赤岩木山パトロール隊  
美化運動認められ  
森林レク協会会長賞

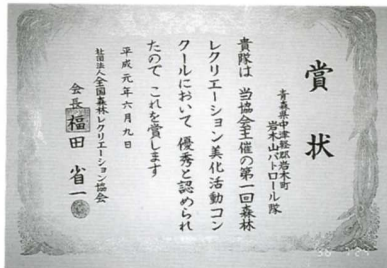
岩木山登山者や春スキーなどの安全確保に努めている日赤岩木山パトロール隊（一戸繁輝隊長、隊員四十六人）がこのほど、美化運動の功績で第一回全国森林レクリエーション協会会長賞を受賞した。

同隊は、昭和五十三年に岩木山スキーパトロール隊として発足。しかし、春スキーやハンググライダーなどで岩木山への入山者が四季を通して増えることから、通年体制の強化を目指して五十九年に日本赤十字社に加盟。現在はパトロール奉仕団として事故防止などに努めている。

また、同隊では毎年定期的に岩木山のクリーン作戦を展開。美化確保にも努めており、これらの功績が認められて全国森林レクリエーション協会が提唱した第一回森林レクリエーション地域美化活動で、賞を喜んでいた。



6月  
全国森林レクリエーション協会より山の美化活動に対し会長賞を授与



1989年  
(昭和64年)  
(平成元年)



6月 第一回岩木町ふるさと探偵団岩木山自然観察会案内 岩木の子供達にふるさとの良さを再確認して行く一つにお山の自然に振れてふるさと勉強会。

宣言「呼ばぬなら、呼ばせてみせよう  
〇〇岩木」

平成1年6月25日、ちょうど「岩木山」の高さと同じになる日なのです。私達はこの日をもって全国にある〇〇富士を、1年6月25日午後1時6分25秒をもって〇〇岩木とよぶことをここに宣言します。

我等のシンボル「岩木山」は津軽富士と呼ばれています。富士山が親分で「岩木山」が子分、しかし富士山の高さは3,776M我等「岩木山」は4,584Mもあるのです。なぜかって？よ〜く見て下さい。「岩木山」には3つのピークがあり、どれが欠けても「岩木山」とは呼ばれません。ですから3つをたさないと「岩木山」ではありません。高さで日本一、形で世界一の「岩木山」なのです。

岩木町町民一同

青森県中津軽郡岩木町大町字常盤野字黒森12の5  
日赤岩木山パトロール隊 Ham Club  
〒036-13 TEL0172-83-2670 OP.....

1625岩木山おやまの  
てっぺんカーニバル協力

1990年  
(平成2年)

2月 大鱈スキー国体協力  
近年にない暖冬で雪を集めてのコース作りに役員は奔走した。

4月 春スキーの高校生立木に衝突し死亡事故  
4月29日 岩木山顕彰碑健立除幕記念式典  
全国のバトロール仲間と皆さんより多くのご支援と関係各位の多大なるご理解をいただき、バトロールの恩師成田義勝氏を忍ととも山に安全誘導等として健立するものである。



成田さんの遺徳 後世に

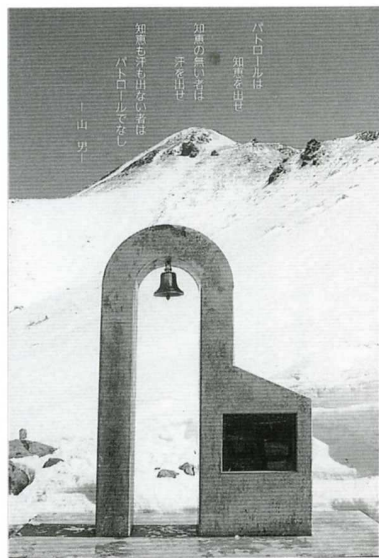
岩木山に安全誘導塔

除幕式で遭難防止誓う

岩木山の遭難者数は、毎年約100人、そのうち約50人が山に遭難した。そのうち約30人が死亡した。この数字は、決して少なくはない。この数字を減らすためには、山に安全誘導塔の設置が必要である。安全誘導塔は、登山者の安全を確保するための重要な施設である。成田さんの遺徳を後世に伝えるため、この塔を健立する。この塔は、登山者の安全を確保するための重要な施設である。成田さんの遺徳を後世に伝えるため、この塔を健立する。

平成二年四月二十九日、念願でありました岩木山顕彰碑が完成いたしました。健立にあたりましては、皆様から心暖まるご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。故成田義勝氏の意志を引き継ぎ、バトロール活動を充実させる決意でございます。岩木山八合目の高台に健立された顕彰碑は、厳冬期でも雪に埋没することなく、岩木山を訪れる登山者や、スキーヤーの目印となり、またバトロール活動のシンボルとして、永久に山の安全を守ってくれることを祈念するものであります。

平成二年五月  
岩木山顕彰碑健立実行委員会  
会長 中村 諭  
日赤岩木山バトロール隊  
隊長 一戸繁輝

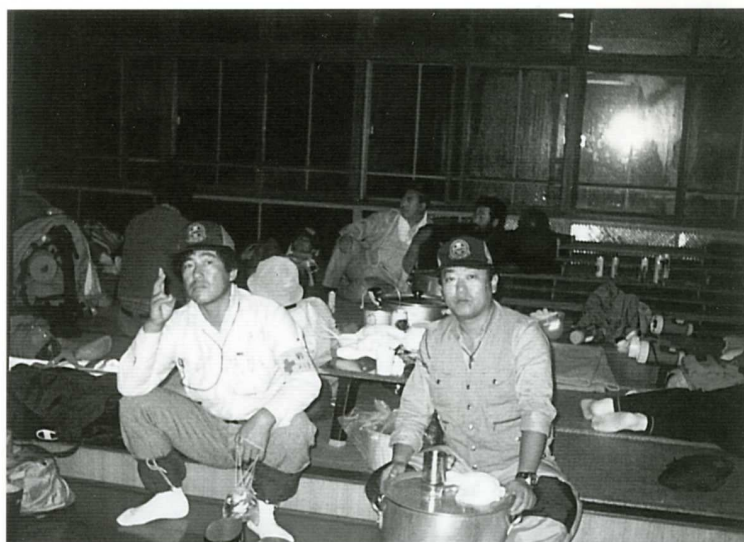
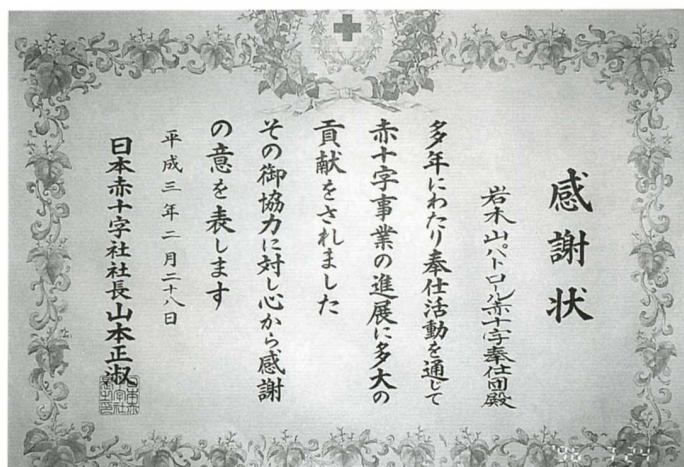


4月 第21回SAJ公認スキーバトロール連絡協議会臨時総会岩木山大会開催  
10月 第一回巨木の森コンサート協力登山者遭難県警ヘリコプターによる救助活動  
第一回津軽三味線フェスティバル協力

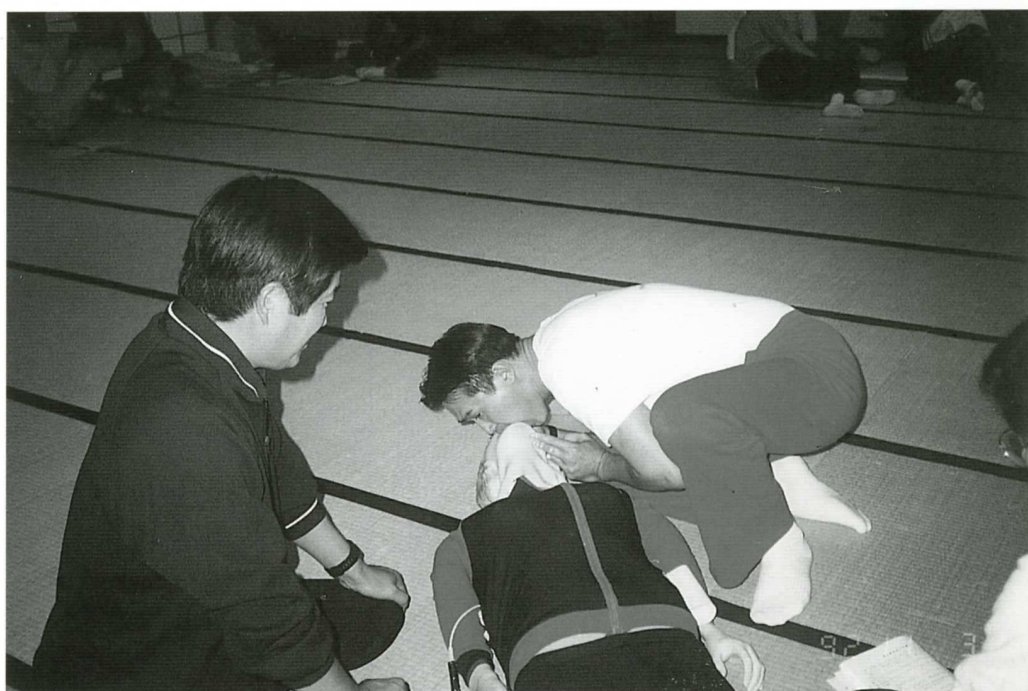
## 20年の歩み

**1991年**  
(平成3年)

- 1月 弘前警察署協力者賞一戸隊長受賞
- 2月 日本赤十字社社長賞授与  
賞状写真掲載
- 7月 スポーツ少年団全国大会協力



9月  
お山参けい夜間パトロール  
毎年旧暦八月一日には恒例行事と  
なっている。

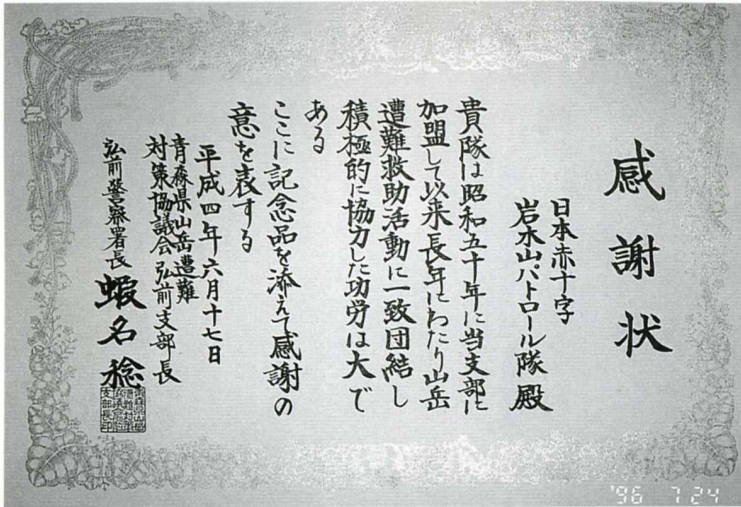


11月 日赤救急講習会開催  
常日ごろからの訓練が大切である。

# 20年の歩み

6月

青森県山岳遭難対策協議会  
弘前支部長より感謝状



# 1992年 (平成4年)

9月

ハングラライダー墜落遭難事故  
2日間に及ぶ捜索救助活動の  
結果重症の怪我をおつていた  
が救助



町褒賞授与式 (H4.11.3)



11月 岩木町褒賞受賞 パトロール隊永年功労者表彰



岩木山ハングライダー事故  
十九日午後二時ごろ、岩  
木山からハングライダー  
た秋田県大館市十二所水  
七、会社員山田正さん  
（三十八歳）が、ハン  
グライダーに墜落し、重  
傷を負った。捜索隊が  
十九日午後二時三十分  
に現場に到着し、岩木  
山パトロール隊員、山  
田正さんが救助された。

## 不明の男性救助

十九日午後二時三十分、岩  
木山からハングライダー  
た秋田県大館市十二所水  
七、会社員山田正さん  
（三十八歳）が、ハン  
グライダーに墜落し、重  
傷を負った。捜索隊が  
十九日午後二時三十分  
に現場に到着し、岩木  
山パトロール隊員、山  
田正さんが救助された。  
この日、山田正さんは、  
ハングライダーに墜落し、  
重傷を負った。捜索隊  
が十九日午後二時三十分  
に現場に到着し、岩木  
山パトロール隊員、山  
田正さんが救助された。  
この日、山田正さんは、  
ハングライダーに墜落し、  
重傷を負った。捜索隊  
が十九日午後二時三十分  
に現場に到着し、岩木  
山パトロール隊員、山  
田正さんが救助された。

# 20年の歩み



2月 弘前警察署地域課冬山訓練指導協力  
毎年二月厳冬の岩木山にて冬山遭難  
救助訓練を実施。



## 1993年 (平成5年)

1993(平5) 4.30(金) 1993年(平成5) 4月30日 金曜日

### 春スキーヤー転落死



遺体の収容作業をいったん打ち切り、再びスキー場に  
戻った岩木山パトロール隊員たち(右)の自撮り写真(3月15日)

### 岩木山南側の断がい 男性 止まり切れず300m落下



**足震える危険コース**  
岩木山南側の断がいコースは、スキーヤーにとって非常に危険なコースとされている。このコースは、急峻な斜面と複雑な地形を特徴とし、初心者や経験不足のスキーヤーには避けるべきである。また、このコースは、雪の積もりにくく、凍結しやすいという特徴がある。そのため、このコースを利用する場合は、十分な準備と注意が必要である。



6月 青森県山岳遭難防止対策協議会弘前支部より長年にわたる  
パトロール活動に対しパトロール隊と事務局高田が感謝状  
受賞



4月 春スキーヤー滝の沢転落死亡事故  
百沢コースを滑走中コースを間違ひ滝の沢へ  
転落、連絡を受けパトロールが急行したが即  
死状態であった、収容作業も困難をきわめ2  
日間に及んだ。

1994年  
(平成6年)

8月  
登山者遭難事故県警ヘリコプターによる救助活動  
登山者は下山途中転倒大怪我を負い同行の妻が警察に救助を求めた、連絡を受けたパトロール隊は現場へ急行したがすでに夕刻、県警のヘリを要請し敏速な救助活動を行った。

登山者遭難事故救助活動に対し弘前警察署より感謝状を赤石、杉野森、高田3隊員が受賞

人命救助の4人表彰

弘前署 検挙協力など2団体も

◆岩木山で遭難、救助  
十七日午後四時四十分、岩木山南麓への登山道清水付近で、下山中の愛知県知多市大長山山群、県立武蔵高校教諭、中井正則さんが遭難、足を滑らせ、約三メートル、左足を骨折し、動けなくなつた。二階にいた妻(五十)が下山し午後五時十五分、弘前署に通報した。同署員や白赤パトロール隊員ら二十一人と県警ヘリが出動し、午後六時四十分、中井さんを無事救助した。中井さんは右の骨を折り、一か月の療養。



表彰状を贈られた小山支部長(左)と感謝状の栗林弘前警察署長  
弘前警察署第二十二、山岳遭難者の救助に貢献した、あつち赤岩山パトロール隊員ら四人と赤石、杉野森、高田の三隊員、ひき逃げ犯検挙に協力した団体にもそれぞれ感謝状を贈呈した。  
山岳遭難で表彰状を贈られたのは、赤石、杉野森、高田の三隊員、ひき逃げ犯検挙に協力した団体にもそれぞれ感謝状を贈呈した。  
山岳遭難で表彰状を贈られたのは、赤石、杉野森、高田の三隊員、ひき逃げ犯検挙に協力した団体にもそれぞれ感謝状を贈呈した。



山岳遭難者の救助に貢献したパトロール隊員ら  
が誤って岩壁に転倒し、足を赤岩山パトロール隊員らと折った救助を求めた。左から、赤石、杉野森、高田の三隊員と、ひき逃げ犯検挙に協力した団体にもそれぞれ感謝状を贈呈した。  
弘前警察署第二十二、山岳遭難者の救助に貢献した、あつち赤岩山パトロール隊員ら四人と赤石、杉野森、高田の三隊員、ひき逃げ犯検挙に協力した団体にもそれぞれ感謝状を贈呈した。

10月  
ねぶた絵師登山転倒死亡事故  
夏山も終了し初冬になろうとしていた時事故は発生した、パトロール隊は夜間の懸命な救助活動にもかかわらず死亡事故となってしまった、この事故はいろいろな悪条件が重なり合った事故である。



齋藤北明さん

三十日午後三時半ごろ、岩木山山頂付近の鳳鳴ヒュッテ近くで、弘前市富士見町、ねぶた絵師齋藤北明さん(本名・明さん)四十七が

山木山 親子登山で転倒  
寒さのなか3時間、死ぬ

「お父さんを助けて」…必死の下山実らず



齋藤さんを担架で運ぶ日赤岩木山パトロール隊員ら=30日午後8時40分、八合目リフト乗り場付近

下山途中、足を滑らせて亡した。  
転倒、首など後頭部を強く打ち、同市内の病院に運ばれたが、午後九時四十分死  
岩木スカイラインを走って午後六時半ごろ現場に着

下山。午後五時半ごろ、岩木町盤野の日赤岩木山パトロール隊に連絡。同隊が下山する途中で事故に遭ったらしい。  
齋藤さんは、同日午前十一時ごろ岩木町百沢から登山道を上り、山頂に到着。下山する途中で事故に遭ったらしい。  
齋藤さんが動けなくなった齋藤さんは洋平君に、自分の免許証と現在地を示す地図を持たせ救助を待っていたという。  
洋平君は、救助の命綱を振りしめ、懸命の思いで頂上付近から約二時間近くかけて、ふもとまで救助を求めたという。現場で救助に当たった関係者は「齋藤さんは鳳鳴ヒュッテまで、あと十メートルに倒れていた。せめてヒュッテまでたどりつけば、寒さも防げたろうに」と話していた。  
齋藤さんは、津軽錦絵作家協会事務局長で、津軽ねぶた歴史研究会の中心メンバー。今年三月に同会でも米国ワシントンでの演説を行うなど、過去六回海外遠征を行っており、弘前ねぶた絵師の中心的存在だった。

# 20年の歩み

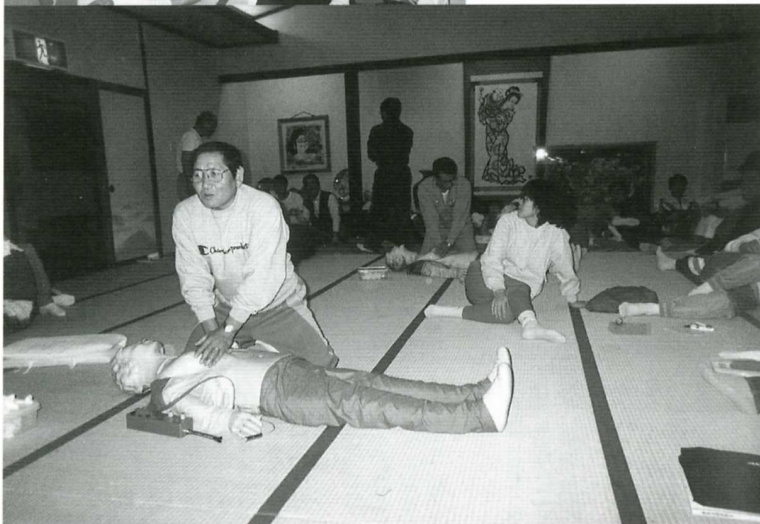
**1995年**  
(平成7年)



5月 春スキーヤー9名遭難捜索救助活動  
夜間捜索と悪天候にもかかわらず  
員無事救助

7月 世界遺産登録の白神岳登山研修会

8月 百沢登山道焼止小屋修理協力



11月 日赤救急法講習会開催  
県内全域から公認パトロール67名が参加し  
て行われた。

# 20年の歩み

1996年  
(平成8年)

2月

青森県山岳遭難対策協議会弘前支部  
冬山訓練指導協力  
雪崩を想定しゾンデ棒による搜索訓練



岩木山8合自給車場の下に設置された、乗り入れ禁止地域を示す看板

**スノーモービル マナー守って!**

岩木山 特別保護地区に立て看板

岩木山の上部に上るスノーモービルが増加し、動植物への影響が心配されるほか、春スキーシーズンにはスキーヤーとの事故も心配される。自然公園法は、国立公園にスキーモービルが多いとは認めなかった。「スノーモービル」に特別保護地区を指定するに賛同する声も出てきた。自然公園法は、国立公園にスキーモービルが多いとは認めなかった。「スノーモービル」に特別保護地区を指定するに賛同する声も出てきた。



4月 青森県スキーパトロール  
春山訓練  
土岐副隊長を講師に本格的なザイルを使った救助訓練を行う。

4月 岩木山スノーモービル乗り入れ対策パトロール実施  
関係機関と連携しスノーモービルの入山に対し啓蒙活動を展開した。



# 日赤岩木山パトロール隊活動年表

## 昭和60年度

- 1月7日 日赤会議
- 3月2日 岳Bコース標識設置
- (12、1、2、3月は毎日コース整備に出動する)
- 4月1日 百沢コース清掃
- 4月3日 岳Aコース危険標識設置
- 4月7日 百沢コース誘導標識設置
- 各コース危険箇所ポール設置
- 岳Bコースにて右足首捻挫怪我人
- 岳Aコース遭難者発生自力下山
- 常勤者本格的活動開始
- スカイライン試乗会
- 4月9日 スカイラインポンタカップ
- 4月14日 弥生コースにて両膝骨折怪我人
- 4月18日 宮様来場 百沢コースガイド
- 4月20日 RABパトロール取材(県政の窓)
- 4月21日 百沢コースにて右膝靭帯損傷者あり
- 大腿骨折者
- 肩脱臼
- 各コース清掃
- 4月22日 岩木山春スキー大会
- 4月28日 左膝靭帯(大会時)
- 右足首捻挫(大会時)
- 4月29日 山内パトロール右膝ジンタイ怪我
- 5月12日 各コースゴミ拾い
- 5月16日 百沢コース下見
- 6月20日 日赤会議
- 7月8日 鳳鳴小屋付近切り傷怪我人有り
- 8月2日 右手首捻挫
- 8月23日 鳥海山にて左足首捻挫
- 9月14日 岩木山御山参脂

## 昭和61年度

- 10月2日 岩木山最終ゴミ拾い
- 10月20日 キノコ狩り遭難者有り 自力下山
- 9月1日 台風時山頂へ登頂者救出
- 11月8日 岳Bコース下見
- 11月18日 岳Bコース整備
- 11月19日 スカイラインスキー場試乗会
- 11月22日 スカイライン試乗会
- 11月29日 スバル北斗18号贈呈式
- 11月22日 スカイラインスキー場試乗会
- 12月29日 岳Bコース危険箇所ポールセット
- 1月2日 岳Bコース切挫創怪我人1人
- 1月2日 9合目種蒔苗代にて雪崩登山者4名遭難救助活動
- 1月3日 岩木山正月遭難救助活動反省会
- 1月11日 弘前警察署長感謝状
- 1月21日 8合目にて耐寒訓練
- 2月22日 スカイラインスノーボードカップ協力
- 2月23日 春スキー打ち合わせならびにスノーモービル隊顔合せ
- 3月22日 左足首と膝靭帯捻挫怪我人1人
- 3月29日 左足首骨折怪我人1人
- 3月30日 春スキー各コース危険箇所下見
- 4月2日 春スキー各コース危険箇所ポール設置
- 4月6日 スカイライン開通式
- 4月9日 左右手指切挫創怪我人1人
- 4月13日 右大腿骨折怪我人1人
- 4月15日 百沢、弥生コース危険箇所ポール設置
- 4月17日 右足骨折怪我人1人
- 4月20日 右足骨折怪我人1人

## 昭和62年度

- 4月24日 百沢コース、弥生コース危険箇所ポール設置
- 4月26日 百沢コース、弥生コース危険箇所ポール設置
- 4月29日 泉傷対委の春山訓練
- 5月3日 右足捻挫怪我人1人
- 5月4日 右足骨折怪我人1人、両足骨折怪我人1人
- 5月11日 春スキーコース清掃活動
- 5月28日 泉警本部長より正月遭難救助活動の表彰式
- 5月30日 山菜取り遭難捜索救助活動
- 6月9日 山菜取り遭難捜索救助活動
- 6月16日 大黒沢雪崩折木刈払い
- 6月19日 日赤青森県支部にて正月遭難救助活動報告
- 7月10日 日赤特殊奉仕団研修会
- 7月13日 国立、国定公園一斉清掃活動協力
- 8月10日 東奥日報取材
- 8月17日 夏山登山道整備
- 8月18日 ハングライダ―墜落救助活動
- 8月31日 山頂仮設小屋建設協力
- 9月3日 お山参詣警備
- 9月4日 山頂にて登山者落雷で怪我タンカにて救助
- 9月7日 ハングライダ―怪我人救助
- 9月23日 山遭難による遭難救助活動
- 10月15日 きのこと採り遭難捜索活動
- 10月18日 日赤救急法講習検定会
- 11月14日 日赤救急法講習検定会
- 11月16日 日赤救急法講習検定会
- 11月22日 スカイラインスキー場試乗会
- 11月23日 スカイラインスキー場オープン
- 11月27日 岩木山春スキー連絡協議会総会
- 12月4日 三原山噴火見舞募金協力
- 12月11日 岩木スキークラブ総会出席
- 1月4日 岳Bコースオープン危険箇所ポールセット
- 1月30日 大鰐スキー場にて泉傷対委講習会
- 3月1日 スカイラインスノーボードカップ協力
- 3月7日 冬山雪上耐寒訓練
- 4月2日 春スキーコース下見
- 4月5日 春スキーコース危険箇所ポール設置
- 4月9日 スカイライン開通式
- 4月10日 岩木山春スキーオープン
- 4月12日 全コースアイスバーン、滑落による怪我人続出
- 4月15日 骨折2名 打撲1名 切り傷1名
- 4月20日 百沢コース危険箇所ポール設置追加
- 4月20日 ポンタチャレンジカップ協力
- 4月26日 スキーヤー1名捻挫
- 5月1日 泉傷対委春山訓練参加協力
- 5月1日 東京のスキーヤー2名遭難、捜索救助活動
- 5月2日 靱帯捻挫、擦傷、つきゆび、3名のけが人
- 5月4日 各コースよりポール回収
- 5月6日 23時不明者の連絡あり、岩木山一周車にて捜索、発見できず
- 5月10日 東京のスキーヤー1名不明、捜索救助活動
- 5月12日 湯段にて山火事発見、消火活動
- 5月19日 黒森温泉別荘地にて山火事発見、消火活動
- 5月21日 春スキー遭難救助活動による弘南バス社長感謝状授与
- 5月28日 春スキー遭難救助活動による弘前署、署長感謝状授与
- 6月15日 タケノコ採り遭難、捜索救助活動
- 7月26日 無事発見
- 9月13日 国立、国定公園一斉清掃協力
- 9月15日 岩木山高原ハングライダ―大会協力
- 9月22日 お山参詣警備協力、怪我人1名収容

10月2日 } スキーコース、岳Bコース調査協力  
 5日 }  
 10月14日 岩木山夏山最終清掃協力  
 10月28日 山遭協による遭難救助訓練

## 昭和63年度

11月22日 スカイラインスキー場試乗会  
 11月22日 前期県傷対委講習会  
 11月27日 岩木山スキー連絡協議会総会  
 12月8日 岳Bコースオープン危険箇所ポ  
 ルセット  
 12月15日 岩木スキークラブ総会出席、隊長  
 出席  
 1月2日 左膝捻挫一名収容  
 1月10日 雪上救助訓練  
 1月12日 NHK岩木山冬山取材協力  
 1月25日 弘前警察署員スキー訓練協力  
 2月27日 冬山雪上耐寒訓練  
 3月2日 弘前警察署員スキー訓練協力  
 3月5日 スカイラインスノーボードカップ  
 3月6日 協力80名参加  
 3月14日 春スキーコース(百沢)下見  
 3月20日 春スキーコース(弥生)下見  
 3月26日 パラグライダー湯の沢へ不時着捜  
 索救助  
 3月27日 第2回岩木山スキーマラソン協力  
 4月3日 春スキーコース(長平)下見  
 4月7日 春スキーコース標識設置  
 4月9日 スカイラインリフト運行準備協力  
 4月9日 春スキーコースポール設置  
 4月17日 スカイライン・ポントカップ協力  
 4月17日 全コースアイスバンのため怪我  
 人続出 骨折2件、打撲2件、切  
 傷1件  
 4月29日 右足靭帯損傷1名救助収容  
 5月2日 大腿骨骨折1名救助収容

5月9日 春スキー各コース標識ポール回収  
 5月9日 春スキー各コース清掃活動  
 6月6日 タケノコ採り3名遭難救助活動  
 6月7日  
 7月10日 西目屋奥にて釣り人遭難出動待機  
 7月14日 岩木山山頂ケルン建立および清掃  
 活動協力 岩木町のケルン  
 7月20日 日赤会議出席  
 9月7日 成田義勝氏顕彰碑建立設立委員会  
 発足会  
 9月10日 お山参詣警備協力  
 9月11日  
 9月23日 岩木山高原祭りハンググライダー  
 大会協力  
 9月25日  
 10月31日 山道遭難救助訓練

## 平成元年度

(昭和64年)

11月23日 スカイラインスキー場試乗会  
 11月29日 岩木山スキー連絡協議会総会  
 12月17日 岩木山冬山登山者遭難捜索  
 12月18日  
 12月21日 岳Bコースオープン危険箇所ポ  
 ルセット  
 3月4日 冬山雪上耐寒訓練  
 3月5日 スカイラインスノーボード大会協力  
 3月10日 春スキー百沢コース下見  
 4月4日 春スキー長平、弥生コース下見  
 4月5日  
 4月5日 春スキー各コース危険箇所ポ  
 ール  
 4月8日 セット  
 4月8日 スカイライン試乗会  
 4月9日 春スキーオープン、小雨、ガス強  
 く岳A、Bコースのみオープン  
 4月20日 春スキー怪我人  
 4月24日 春スキー連絡協議会会議  
 春スキー各コース雪不足のためク  
 ローズとし、岳Bコースのみオ  
 ープンとする

5月8日 春スキー各コースポール回収、清  
 掃活動  
 5月11日 山菜採り老人遭難、発見できず  
 5月12日  
 6月9日 日赤会議出席  
 6月11日 ふるさと探偵団岩木山自然観察ガ  
 イド  
 6月24日 全国森林レクリエーション協議会  
 長賞受賞祝賀会  
 6月25日 岩木山おやまのつぺんカーニバ  
 ル協力  
 7月31日 山頂にて怪我人、応急処置救助  
 8月18日 山頂にて怪我人、応急処置救助  
 8月31日 お山参詣警備  
 9月17日 高原祭ハンググライダー大会救助  
 協力  
 9月26日 山遭協秋山遭難訓練  
 9月28日 顕彰碑建設の営林署許可申請  
 9月29日 顕彰碑建設の公園事務所許可申請  
 10月1日 スカイラインにて自動車転落事故  
 救助協力  
 10月2日 岩木山顕彰碑建設現場立会い検査  
 建設許可  
 10月6日 中央高校先生2人きこの採り遭難、  
 無事発見  
 10月21日 岩木山顕彰碑建設完成  
 11月3日 救急法講習会  
 12月18日 岩木スキークラブ総会出席

## 平成2年度

12月20日 岩木山スキー連絡協議会総会出席  
 12月21日 岳Bコースオープン危険箇所ポ  
 ルセット  
 2月21日 大鰐スキー国体協力  
 2月23日  
 3月3日 冬山雪上耐寒訓練  
 3月4日 スカイラインスノーボード大会協力  
 3月11日 春スキー百沢コース下見  
 3月25日 岩木山スキーマラソン協力  
 3月26日 春スキー各コース危険箇所ポ  
 ール  
 3月30日 セット  
 3月31日 スカイライン試乗会出席  
 4月1日 岳Bコースにてスキーヤー死亡事  
 故救助活動及び緊急事故防止対策  
 会議  
 4月29日 岩木山安全誘導碑除幕式  
 4月30日 S A J公認パトロール連絡協議会  
 臨時総会  
 5月6日 春スキー各コースポール回収清掃  
 活動  
 6月10日 岩木町ふるさと探偵団岩木山自然  
 観察ガイド  
 6月22日 岩木高校岩木山登山ガイド  
 6月24日 巨木の森コンサート協力  
 6月27日 山遭協総会出席  
 7月11日 日赤会議出席  
 7月22日 登山者怪我前腕骨折(119番)  
 7月29日 岩木山クレーン作戦協力  
 7月29日 通信部会通信訓練  
 7月30日 登山者高山病にて救助(119番)  
 7月31日 県教育委員会岩木山登山ガイド  
 9月18日 お山参詣 警備  
 9月19日  
 9月24日 津軽三味線フェスティバル協力  
 9月25日 山遭協秋山遭難救助訓練  
 10月18日 登山者遭難救助活動 県警ヘリコ  
 プターにて救助  
 11月5日 岩木スキー場設立パ  
 ーティー出席

# 平成3年度

- 11月23日 スカイラインスキー場オープン
- スキーパトロール開始
- 12月11日 スキーコース刈払い
- 12月15日 岩木町営百沢スキー場オープン祝賀会
- 12月18日 岩木山スキー連絡協議会総会
- 12月18日 岩木山スキークラブ総会
- 12月31日 岳Bコースオープン危険箇所ポールセット(50番より)
- 1月10日 弘前警察署協力者受賞
- 1月27日 パト車北斗取材
- 1月29日 RABテレビ取材協力(岩木町紹介)
- 2月1日 全国障害者スキー大会協力
- 2月3日 スキーヤー立木に衝突 頭部切創 怪我救助
- 2月11日 TBSテレビ取材協力
- (わいわいスポーツ塾)
- 2月13日 弘前警察署外勤課冬山救助訓練指導協力
- 2月24日 スカイラインコースにて足首捻挫 怪我人救助
- 2月24日 MT・IWA KISノートライアスロンプレ大会協力
- 2月28日 日赤中弘南黒大会出席 日赤社長 受賞
- 3月2日 岩木山冬山耐寒訓練
- 3月3日 スカイラインスノーボードカップ協力
- 3月13日 日赤委員長会議出席
- 3月24日 岩木スキーマラソン大会協力
- 4月7日 春スキー各コース危険箇所ポール設置
- 4月11日 スカイライン開通式出席
- 春スキーオープンパトロール開始
- 4月13日 長平コース右足首捻挫
- 4月14日 右下腿骨折

- 5月6日 春スキーごみ拾い及び岩木山安全誘導碑一周年記念
- 6月9日 岩木町少年探偵団 登山ガイド
- 6月7日 山遭協総会出席
- 6月12日 日赤委員長会議出席
- 6月16日 夏山サバイバル訓練
- 7月11日 役員会(組織活性化委員会)
- 7月17日 日赤特殊奉仕団研修会
- 7月21日 岩木山クリーン作戦参加
- 7月29日 全国スポーツ少年団大会協力
- 8月6日 県教育委員会新人研修会協力
- 9月2日 遭難救助活動
- (74歳の老人遭難 無事自力下山)
- 9月7日 お山参詣夜間警備
- 9月8日
- 9月17日 山遭協秋山遭難救助訓練参加
- 9月23日 津軽三味線フェスティバルIWA K1協力
- 10月8日 登山道整備
- 11月2日
- 4日 日赤救急法講習会開催
- 11月23日 スカイラインスキー場オープン
- スキーパトロール開始
- 12月 岩木山スキー連絡協議会総会
- 岩木町営百沢スキー場オープン
- 12月20日 岳Bコースオープン危険箇所ポールセット
- 2月19日 青森営林局(弘前営林署)ガイド
- 2月23日 スノーモビル全国大会協力
- 3月7日 怪我人スキーヤー立木に衝突打撲
- 3月8日 岩木山冬山耐寒訓練
- 3月8日 スカイラインスノーボードカップ協力
- 3月22日 岩木スキーマラソン大会協力
- 4月4日 春スキーパトロール打ち合わせ会

# 平成4年度

- 4月5日 春スキー各コース危険箇所ポール設置
- 4月9日 岩木山夏山開きスカイライン開通 試乗会出席
- 4月10日 スカイライン開通 春スキーパトロール開始(百沢コースは亀裂(雪崩危険)の為クローズ)
- 5月5日 春スキー各コースごみ拾い
- 5月7日 春スキーパトロール打ち上げ会
- 5月7日 山菜採り老女遭難捜索活動
- 5月8日 (2週間後死亡にて発見)
- 6月9日 RABラジオ岩木山取材協力
- 6月10日 日赤委員長会議出席
- 6月14日 岩木町少年探偵団 登山ガイド
- 6月17日 弘前山遭協総会出席
- 7月5日 夏山サバイバル訓練
- 7月5日 岩木山クリーン作戦参加
- 7月17日 日赤特殊奉仕団研修会
- 8月4日 県教育委員会新人研修会協力
- 8月27日 お山参詣夜間警備
- 9月16日 弘前山遭協秋山遭難救助訓練
- 9月20日 岩木山ハンググライダー大会協力
- 9月22日
- 9月20日 ハンググライダー墜落遭難捜索救助
- 9月21日 活動(秋田県32歳の男性2ヶ月の重傷)
- 10月4日 津軽三味線フェスティバルIWA K1協力
- 11月3日 日赤救急法講習会開催協力(27名参加)
- 12月5日 スキーパトロール活動
- 5月10日 夏山パトロール活動

# 平成5年度

- 12月1日 及びパトロール隊永年功労者表彰
- 12月1日 スキーパトロール開始
- 1月17日 スノーモビルの若者心臓発作で倒れ救助(死亡)
- 2月13日 スキーヤー不明
- 2月13日 捜索無事自力下山
- 2月18日 弘前警察署地域課冬山訓練指導協力
- 3月6日 パトロール隊冬山訓練
- 3月7日 岩木山スノーボード大会協力
- 3月21日 岩木山スキーマラソン大会協力
- 3月27日 全日本スキー選手権大会協力
- 4月4日 春スキーコース危険箇所ポール設置
- 4月13日 皇室の方々春スキー案内
- 4月14日
- 4月10日 岩木スカイライン開通式出席
- 4月29日 春スキーパトロール開始
- 4月30日 スキーヤー滝の沢転落死亡事故救助活動
- 5月1日 春スキー打ち上げ会
- 5月2日 春スキーコース(弥生コース)整備及び登山道整備(丸田橋架け替え作業)
- 5月10日 春スキーパトロール終了
- 5月10日 夏山パトロール開始
- 5月30日 巨木の森コンサート協力
- 6月10日 日赤会議出席
- 6月17日 山遭協弘前支部総会出席
- この席上パトロール隊と高田が支部長受賞
- 6月20日 岩木町少年探偵団登山案内
- 7月8日 岩木高校登山案内
- 7月11日 岩木山クリーン作戦
- 7月16日 日赤会議出席
- 7月20日 スカイラインリフト開通式出席
- 7月27日 県教育委員会登山案内
- 8月28日 都はるみコンサート協力
- 9月3日 山遭協秋山遭難救助訓練
- 9月15日 お山参詣夜間警備
- 9月16日 登山者1名急病にて救助
- 9月20日 登山者1名転倒怪我救助
- 11月29日 岩木町褒賞受賞祝賀会

# 平成6年度

- 9月23日 ハンググライダー大会協力
- 9月26日 津軽三味線フェスティバル協力
- 10月3日
- 12月1日 スキーパトロール開始
- 12月18日 百沢スキー場開き
- 12月20日 岩木山スキー連絡協議会総会
- 12月30日 スキーヤー(4名)遭難騒ぎ
- 2月6日 百沢スキー場スキーパトロール応援
- 2月16日 弘前警察署地域課冬山訓練指導協力
- 3月5日 パトロール隊冬山訓練
- 3月6日 岩木山スノーボード大会協力
- 3月20日 岩木山スキーマラソン大会協力
- 3月25日 SAJ公認パトロール全国競技会協力
- 4月5日 春スキーコース危険箇所ポール設置
- 4月6日 岩木山スキー連絡協議会会議
- 4月16日 岩木スカイライン開通式
- 5月8日 春スキーコースポール回収、ごみ拾い、打ち上げ
- 5月10日 岩木山夏山パトロール開始
- 5月29日 巨木の森コンサート協力
- 6月2日 タケノコ取り遭難捜索活動(無事自力下山)
- 6月10日 日赤会議
- 6月19日 岩木町ふるさと探偵団登山案内
- 6月24日 山遭協総会
- 7月3日 岩木山クリーン作戦
- 7月3日 登山者転倒怪我応急処置救助
- 7月9日 タケノコ取り遭難捜索活動(無事自力下山)
- 7月13日 日赤会議
- 7月26日 県教育委員会登山案内
- 7月30日 スポーツ少年団東北大会登山案内
- 8月17日 登山者転倒事故県警ヘリにて救助
- 8月22日 弘前警察署より人命救助表彰受賞

# 平成7年度

- 8月29日 山遭協秋山遭難捜索訓練
- 9月5日 お山参詣夜間警備
- 9月5日 登山者転倒怪我応急処置
- 9月18日 マタギの知恵を学ぶツアー参加
- 9月23日 岩木高原祭り協力
- 9月25日
- 10月2日 津軽三味線フェスティバル協力
- 10月9日 岩木町ふるさと大使岩木山登山案内
- 10月30日 登山者転倒怪我救助活動(死亡事故)
- 12月18日 スキーパトロール開始
- 12月20日 岩木山スキー連絡協議会総会
- 1月4日 スノーボーダー立木に衝突大ケガ救助
- 1月18日 弘前警察署より警察協力者賞受賞
- 1月24日 阪神大震災義援金活動
- 1月31日 岳小学生下校途中吹雪で遭難、捜索救助活動
- 2月15日 弘前警察署冬山訓練指導協力
- 3月4日 冬山耐寒訓練
- 3月5日 スカイラインスノーボード大会協力
- 3月14日 日赤奉仕団委員長会議
- 3月26日 岩木山スキーマラソン大会協力
- 4月9日 春スキーパトロール開始(常勤6名)
- 4月16日 春スキーヤー転倒骨折のケガ救助(同時2名発生)
- 4月23日 県連主催パトロール春山訓練協力
- 5月3日 春スキーヤー転倒骨折のケガ救助(この日2件発生)
- 5月3日 春スキーヤー9名遭難捜索救助活動(全員無事発見)
- 5月7日 春スキーポール回収、ごみ拾い、登山道整備
- 5月10日 夏山パトロール開始
- 5月28日 第6回巨木の森コンサート協力



- 6月14日 タケノコ取り老人遭難捜索救助活動(無事発見)
- 7月2日 白神岳登山訓練
- 7月8日 登山者転倒ケガ応急処置
- 7月9日 岩木山クリーン作戦
- 7月12日 日赤特殊奉仕団会議
- 7月28日 青森県スポーツ少年団大会登山案内
- 8月20日 百沢登山道焼止り小屋修理部材搬送
- 8月21日 百沢登山道焼止り小屋修理手伝い
- 8月25日 お山参詣夜間警備
- 山遭協遭難捜索訓練(本当の遭難騒ぎが発生)
- 9月9日 青森ガールスカウト夜間登山案内
- 9月23日 高原祭り、ハンググライダー大会
- 協
- 9月24日 力(ケガ人2人)
- 10月1日 第6回津軽三味線フェスティバル協力
- 10月22日 中学生遭難捜索救助活動(無事発見)
- 11月11日 日赤救急法講習会
- 12月12日

# 老人遭難救助活動

岩木山パトロール隊奉仕団  
事務局 高田敏幸

平成二年十月十七日、私は久々に何もスケジュールのない穏やかな秋晴れの朝を迎え、妻と二人で遅い朝食をとり、のんびりと新聞を読んでいた。そこへ、弘前警察署から電話が入りました。「山で老人がケガをして動けなくなっているらしいので、すぐ救助に向かってほしい」と。

もう夏山のシーズンも終わりになる直前で、今シーズンも無事、大きな事故もなく終了すると思っていた矢先の出来事である。「災害は忘れた頃にやってくる」やはり油断は禁物だった。そんな事を考えながら、装備を手に山へ向かったのです。岩木スカイライン八合目午前十一時半着。スカイラインの職員一人の応援をいただき、二人で現場へ急行した。移動中は無線連絡で、一戸隊長と警察官に、百沢スキー場へ行ってもらい連絡本部を作ってもらった。現場到着十二時半。ケガ人の老人は、憔悴しきっていた。私は老人を元気づけつつ、体の痛い部分を聞き取り、大腿骨折、頭部打撲、切傷と判断し、応急処置を施した。事情を聞けばきのう山に登り、道に迷い一夜野宿であったのだ。

岩木山の十月のこの時期と言えば、初冬。軽装での身なりでは想像を越える寒さであったにちがいない。寒さとケガ、これだけの高齢の身で、よくぞがんばったものだと思った。

氏名、年齢、住所、ケガの状況、遭難の状況など、無線にて麓の連絡本部へ報告した。それから、ケガ人の現場からの救出について協議し、応援を要

請したのだが、私が現場到着から二時間たっても応援隊が来ないのである。

秋の日没は早い。あせる私の気持ちと、老人の不安げな表情。待ちに待った応援隊が四名到着した時、すでに午後三時をまわっていた。応援隊の息つく間もなく、担架にて老人の搬出を開始した。しかし、険しい山道、思ったより前に進まないのだ。二〇〇〜三〇〇mの連続である。時刻はすでに三時半、このままでは、とても日没までに麓のスキー場まで、おろすことは出来ない。本部とあせる私との無線のやりとりがあり、最後の手段として、警察のヘリコプターを要請する事にしたのだ。

しかし、現場からのヘリコプターへの、つり上げは、無理。つり上げ可能な場所まで搬出再開。険しい沢づたいの登山道では、六人搬送する所あれば四人搬送のところあり二人搬送ありと、あらゆる手段を使つての、約1kmの距離。一時間を費やした救助活動でありました。

ヘリコプター飛来、しかし、平らな場所とは言え、山地のため着陸はできないと無線あり。地上一〇〇〜一五mでのホバリング(空中停止)にて、つり上げる事になった。乗員一名が、ワイヤーロープにて降下してきた。つり上げの指示をもらい、ヘリコプターへのつり上げ開始、私はお手伝いしながら、ふと、日航御巢鷹山墜落事故の救助シーンの様に思えた。

無事ヘリ収容。ヘリは下のスキー場に待機している救急車へ急降下して行

った。私達が全力を費やして、やっとの思いでここまで来たのに、ヘリコプターは、いとも簡単にあつと言う間に飛び去って行ったのである。

今回の事故で特に得た教訓が二点ありました。

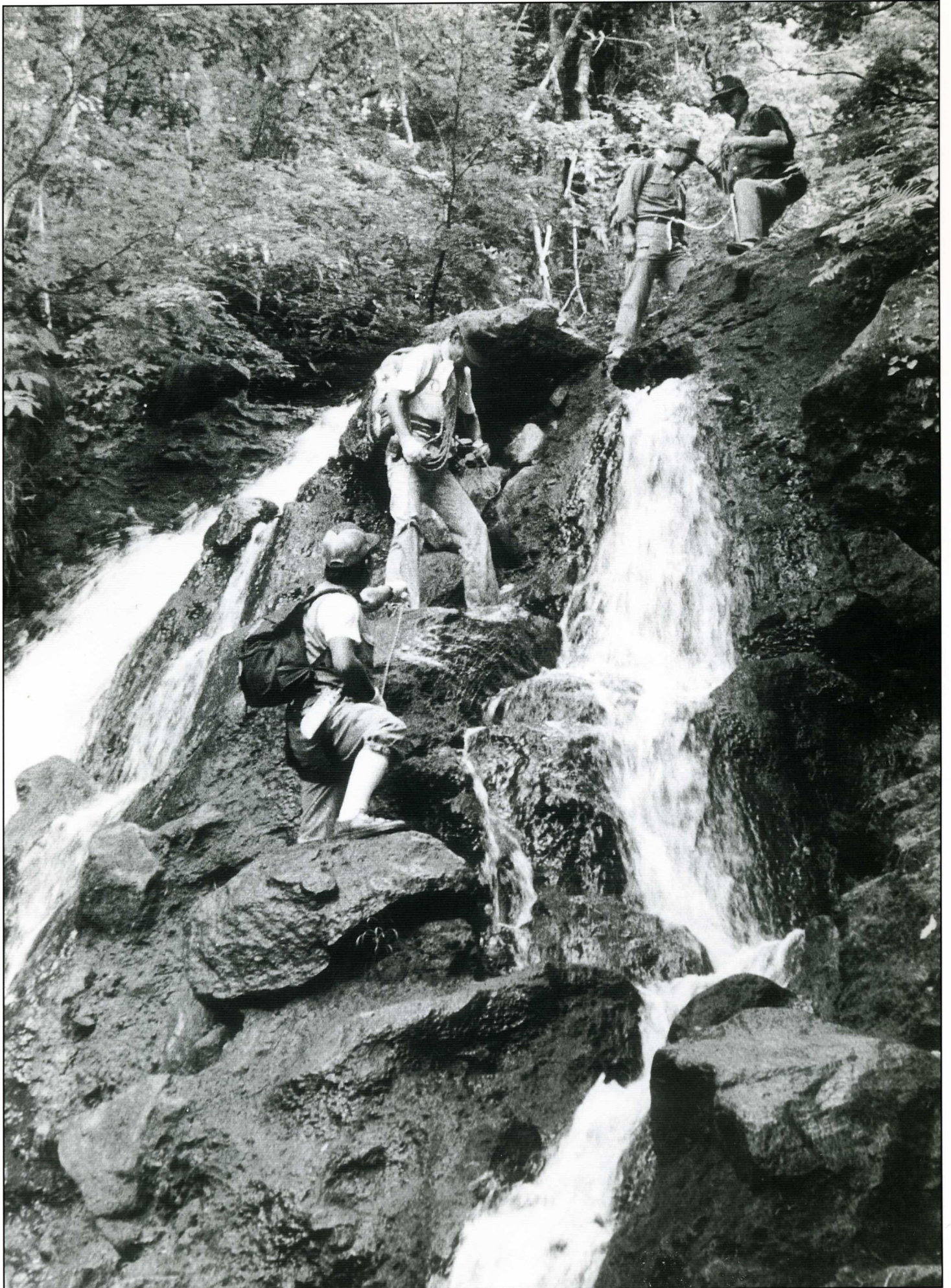
まず一点は、ヘリコプターの要請の事です。やはり一刻を争う事故では、迷わずお願ひする事である。

第二点は、赤十字(レッドクロス)の重みを痛切に感じた事です。活動中、私はレッドクロスの入ったベストを着用していたため、遭難者は、あとで日赤青森県支部を通じて、私を捜して来たのです。一般の人は赤十字を見た時、救急車とか日赤病院といった様に、ケガ人、病人を助ける人達と言うイメージを強く持っているようです。

奉仕団の皆さん。もう一度考えて下さい。レッドクロスを付けていた時にケガ人や病人がいて、何も出来なかつたり、知らないふりをしたりしたら、その人達はどう思うでしょうか。それだけに私達は、重いレッドクロスの責任を背負っているのだと言う事を再確認するべきではないでしょうか。

(平成3年日本赤十字社青森県支部発行  
奉仕団活動実践紀要No.10より)





## 協賛各社

株式会社 スワロースキー  
長野県飯山市 ☎0269-62-3166

大鱒スキースクール  
大鱒温泉スキー場 ☎0172-32-4198

株式会社 野呂義組  
黒石市 ☎0172-53-5318

有限会社 館山花店  
弘前市外崎 ☎0172-26-3131

みちのくココ・コーラ(株)  
弘前営業所 ☎0172-34-5200

あじゃら高原スキー場  
大鱒温泉 ☎0172-47-6800

株式会社 東邦設備工業所  
弘前神田 ☎0172-34-0056

社団法人 弘前観光協会  
弘前市 ☎0172-35-3131

ペンション アルペン  
大鱒温泉スキー場 ☎0172-48-2239

有限会社 相互地産  
弘前市南大町 ☎0172-33-5010

山の幸 岩木屋  
獄温泉 ☎0172-83-2040

津軽岩木スカイライン営業所  
弘南バス株式会社 ☎0172-83-2314

お食事所 民宿  
ぶなこ じょっぱり  
☎83-2428 ☎83-2175

鱒ヶ沢スキー場  
岩木山鱒ヶ沢高原 ☎0173-72-1011

株式会社  
マルノ建設設計事務所  
弘前市袋町 ☎0172-35-4657

岩木町観光協会  
岩木山のある町岩木町 ☎0172-82-3111

百沢温泉旅館組合  
岩木山百沢温泉郷 ☎0172-83-2215

岩木山百沢スキー場  
岩木町開発振興公社 ☎0172-83-2224

鱒ヶ沢スキークラブ  
会長 本間龍雄 ☎0173-72-2111

ARIAスキークラブ  
会長 岡晴夫 ☎0172-83-2314

青森市スキー連盟  
公認パトローラー同 ☎0177-74-5261

木村農園  
平賀町 ☎0172-44-3546

パーラーサンプラザ  
黒石市 ☎0172-53-2600

まつしま団地保育園  
社会福祉法人青森民友厚生振興団  
☎0173-34-3590

山のホテル  
岩木山獄温泉 ☎0172-83-2329

常盤野観光連盟  
岩木山獄温泉郷、湯段温泉郷  
☎0172-83-3121

岩木スキークラブ  
会長 笹健一郎 ☎0172-82-3111

七戸町スキークラブ  
会長 田中良橘 ☎0176-62-2111

森田スキークラブ  
公認パトローラー同 ☎0173-26-3137

有限会社 三光電気  
鱒ヶ沢町 ☎0173-72-2405

有限会社 西沢車輛  
弘前市無牛子 ☎0172-27-6350

軽食喫茶 かあーむ  
弘前市大清水 ☎0172-36-0677

健康温泉 桃太郎  
弘前市新里 ☎0172-28-3211

ペンション ワンダーランド  
岩木山岳高原 ☎0172-83-2670

岩木山のある町 岩木町 夢おこし基金



## 編集後記

記念誌の発行を企てて以来苦勞を重ねた高田事務局長のご尽力に感謝致します。また準備作業を通して多くの皆様の暖かい存在を改めて実感いたしました。このことは今後の活動の起爆剤となることでしょう。近年の自然愛好者の増加には目を見張るものがあるだけに、益々ボランティア活動の存在が大きくなるであろう事を確信します。継続こそが宝という思いをかみしめながら、隊員を含め各方面の皆様に今後とも多大なご支援を懐中よりお願いし、スタッフとして一言を添える光榮を嬉しく思っております。

記念誌編集委員長 土岐 司

20周年記念誌を発行しようと決まってから私自信パトロール隊とのかかわりが13年しか無くどうまとめて行けばよいか悩み結局遅れ遅れとなってしまいました。先輩諸氏のお話を伺い本当に岩木山を愛しかかわってこられた方々と関係機関の方々には深く感謝申し上げます。今後も意志を継いだ私共は先輩諸氏に恥じない活動をして行きたいと思っておりますので変わらずのご支援ごべんたつの程よろしくお願い申し上げます。

岩木山パトロール隊 事務局 高田 敏幸

この20周年記念誌編さん刊行にあたり、多くの方々のご支援を戴きましたが、殊に岩木町より「夢おこし基金」の助成を賜りました。心より感謝の意を表すものです。



編さん委員会委員長	土岐 司
副委員長	赤石勝美
委員	島村新生
	富波 伴
	田澤秀恭
	高田敏幸

**SKI PATROL**  
**Mt. IWAKI**



**S.A.J.**